

# 宮城県がん登録管理事業

## 宮城県がん登録管理事業の概要

宮城県の地域がん登録は、東北大学の瀬木三雄教授により昭和26年（1951年）に実施された日本で最初の地域におけるがん罹患調査を源流とします。その後、昭和34年（1959年）に宮城新生物レジストリーが設立され、宮城県地域がん登録事業として再開されました。昭和47年（1972年）には、宮城県に移管され、以後、宮城県におけるがんの罹患についての集計が行われています。

公益財団法人宮城県対がん協会では、昭和51年（1976年）から平成31年（2019年）まで、宮城県より委託を受け、がん登録室で業務を行っていました。



宮城県では「出張採録」が大きな特徴です。これは、登録室スタッフが各医療機関に出張し、診療情報を閲覧の上、必要な情報を調査票に転記するものです。登録業務を熟知したスタッフによる出張採録により、精度の高い登録を実現しました。

集計結果は「宮城県のがん罹患」及び「宮城県のがん」として定期的に公表されています。また、がん検診の精度や有効性評価、コホート研究によるライフスタイルとがん罹患リスクとの関連の検討などのさまざまな疫学研究に利用されることにより、がん研究やがん対策の推進に役立てられています。



国の「がん対策推進アクションプラン2005」に基づき、平成18年（2006年）、全国にがん診療連携拠点病院が整備されることになりました。拠点病院では、院内がん登録の実施が指定要件とされたことから、その後、院内がん登録を行う病院が増えることになりました。このことを受け、出張採録中心の収集方法から院内がん登録を行う病院からの報告を受ける方向へと大きく転換することになりました。

平成28年（2016年）、「がん登録等の推進に関する法律」が施行されたことに伴い、全国がん登録が開始されました。法律により、病院等による届出が義務化されたことから、出張採録はその役目を終えることになりました。そして、平成31年（2019年）からは、法律に基づく事業として、宮城県立がんセンターに移管され、登録業務が行われています。

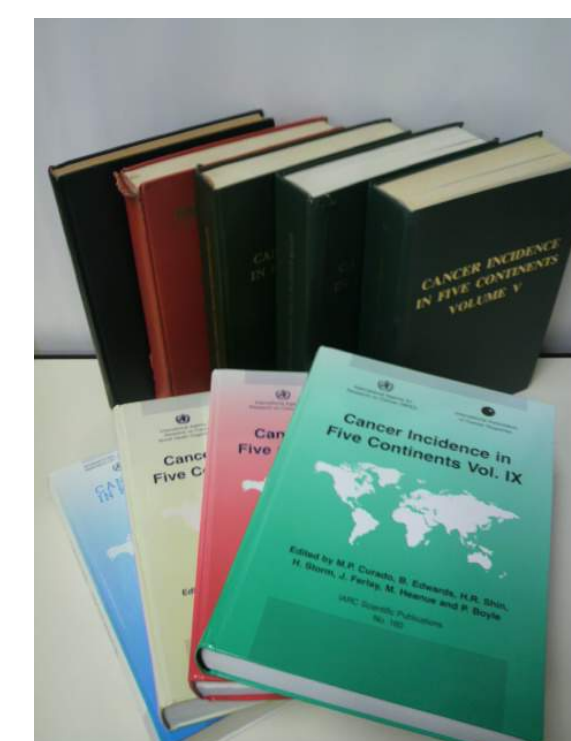
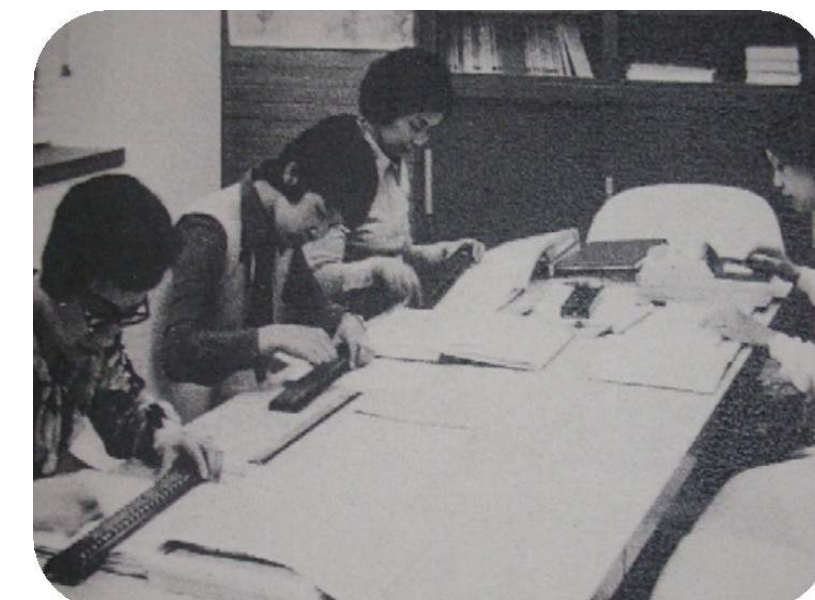
「評価なくして対策なし、登録なくして評価なし」は、宮城県対がん協会会長・久道茂先生の言葉ですが、精度の高いがん登録データが今日の宮城県及び国のがん対策推進を支えています。

## 年 表

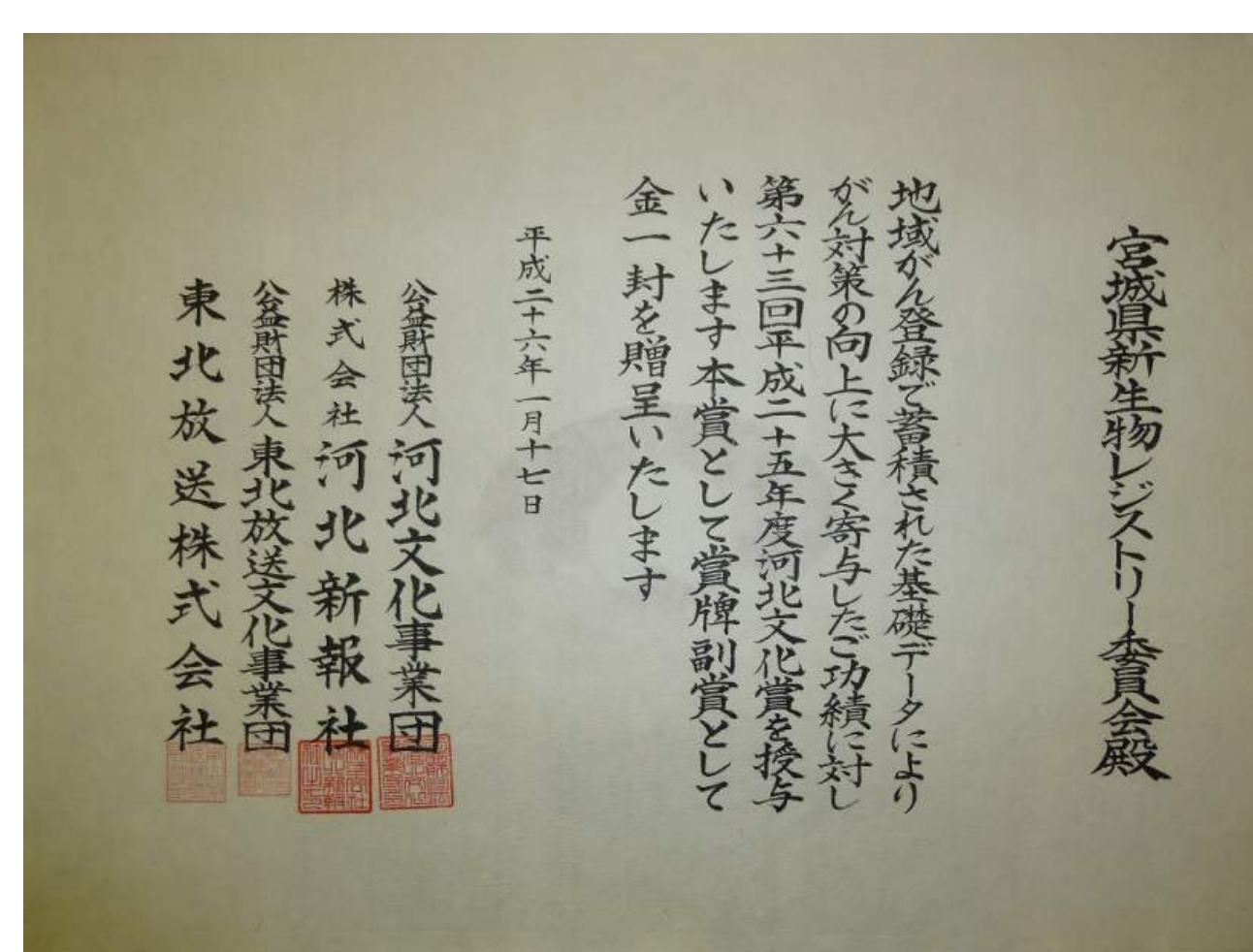
- 1951 (昭和26) — 東北大学の瀬木三雄教授により罹患調査開始。  
(東北大学医学部公衆衛生学教室、昭26-28)
- 1953 (昭和28) — 「昭和26年宮城県癌調査結果について」が宮城県医師会報第14号に掲載される。
- 1959 (昭和34) — 宮城県内の罹患調査をがん登録事業として再開、名称を宮城新生物レジストリー (Miyagi Cancer Registry) とする。  
(東北大学医学部公衆衛生学教室)
- 1966 (昭和41) — 瀬木教授「癌の登録に関する国際協議会」を提唱。10月国際癌学会開催中の東京で世界各国の登録担当者を集めて発会。後にIACR (国際がん登録協議会) へ発展する基礎をつくる。  
  
Cancer Incidence in Five Continents (UICC) に日本からは宮城県のデータ (1959-1960) のみ掲載。以後、継続して掲載される。
- 1972 (昭和47) — 瀬木教授の退官に伴い、がん登録事業は東北大学より宮城県に移管。名称を宮城新生物レジストリーから宮城県新生物レジストリーと変更。登録業務も宮城県成人病センター (現・宮城県立がんセンター) に移管。
- 1976 (昭和51) — 登録業務が宮城県成人病センターより (財)宮城県対がん協会に移管。
- 1993 (平成5) — 地域がん登録全国協議会第2回総会研究会を仙台で開催。
- 2004 (平成16) — 地域がん登録全国協議会第13回総会研究会を仙台で開催。
- 2012 (平成24) — 国際がん研究機関 (IARC) と国際がん登録協議会 (IACR) より表彰。
- 2014 (平成26) — 宮城県新生物レジストリー委員会が第63回河北文化賞を受賞。
- 2016 (平成28) — 「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、全国がん登録が開始。
- 2019 (平成31) — 登録業務が (公財) 宮城県対がん協会より宮城県立がんセンターに移管。



瀬木三雄教授



## 世界に誇る精度の高い宮城県のがん登録



2012年（平成24年）、世界のがん罹患統計に関するデータブックである「Cancer Incidence in Five Continents (五大洲のがん罹患)」に、第1巻から継続してデータを提供してきた功績をたたえられ、世界保健機関 (WHO) の関連機関である国際がん研究機関 (IARC) と国際がん登録協議会 (IACR) より表彰を受けました。このとき表彰されたのは12ヶ国17登録で、日本では宮城県だけでした。

2014年（平成26年）には、地域がん登録によりがん対策の向上に寄与した功績により、宮城県地域がん登録の運営にあたる宮城県新生物レジストリー委員会（会長：嘉数研二宮城県医師会会長）が第63回河北文化賞を受賞しました。1月1日の河北新報に受賞の記事が大きく掲載され、宮城県地域がん登録の価値が広く県民に知られる大変貴重な機会となりました。